

中部での広域・流域間連携 この先に向けて 【参考資料】

愛知・川の会では、近藤が代表をしていた時代（2013－2016年）に中部での市民・行政連携によるネットワーク構築にチャレンジしたことがある。結局のところこの試みは全くの挫折に終わったものの、その理由は何だったのかを考えてみる必要がある。主に都市域河川の地先や区間で長く活動していた市民のプライド、そこ地方で抱えている危機感の間に相当なギャップがあったことなど、いずれにせよ今考えれば、課題解決に向けて連携すべきテーマが共有できなかったことが大きかったであろう。



2014.1.24 岐阜県杭瀬川 現地交流会及び岐阜県庁での意見交換会
愛知・川の会と岐阜県との交流展開も2年程で、長続きしなかった



2015.10.3 中部のシンポジウム(長野県駒ヶ根市)及び
2016.12.19 河川協力団体ミーティング実施も中部はまとまらず

片や同時期、近藤が仲間たちと共に立ち上げた22世紀奈佐の浜プロジェクト（2012年創設）は、伊勢湾の海岸漂着ごみ問題をきっかけに始めたものであるが、愛知・岐阜・三重3県での連携が進み、ここには多くの学生たち、若者たちも集結し現在まで続いている。その違いについては当時はあまり意識していなかったが、全ての流域は海へと流れる。様々な課題が海で現れてくる・・・そこが広域で危機感を共有するためには重要だったのである。

【22世紀奈佐の浜プロジェクト】



2016.10.28～30 海ごみサミット(伊勢市) & 答志島海岸清掃(鳥羽市)
愛知・岐阜・三重の3県、若者たち、そして世界中からも多様な人びとが集まった



2014.6.15 愛知県渥美半島 西の浜エクスカージョン
ここには矢作川流域圏懇談会の山～海全部会も集結した

2017年、土木研究所自然共生研究センターに一人の若者（坂本貴啓君）が赴任し、いい川・いい川づくりワークショップの中部版を始めたいとの相談を受けたものの、当時中部での流域連携に挫折していた近藤は、真剣には取り合わなかった。「中部では無理だよ」と。しかしながら、彼に同調する清水雅子女史から「何とかしなさいよ！」とけしかけられ、重い腰を上げたのが2018年のことであり、ここが出発点となった。以降試行錯誤を重ねて現在に至るのであるが、奈佐の浜プロジェクトの学生たちを巻き込みながら徐々に輪が広がっていく。そのプロセスについては次頁以降に示すが、2019年に「中部流域連携ネットワーク」（代表；近藤朗）を設立、5か年（2020-2024年度）の河川基金助成金を得てネットワークの目指すべき姿を模索することとしたが、遂にその最終年度を迎えるのである。まだまだ伊勢湾流域圏など多くの課題は解決されておらず、途中段階に過ぎないものの、ひとまずの到達点は何だったのだろうか？

2020.12月 ゆく川 くる川 川談義 中部流域連携ネットワークの仲間たち

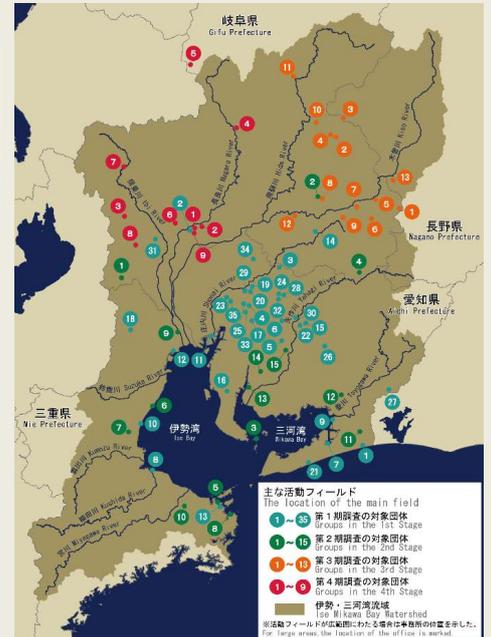
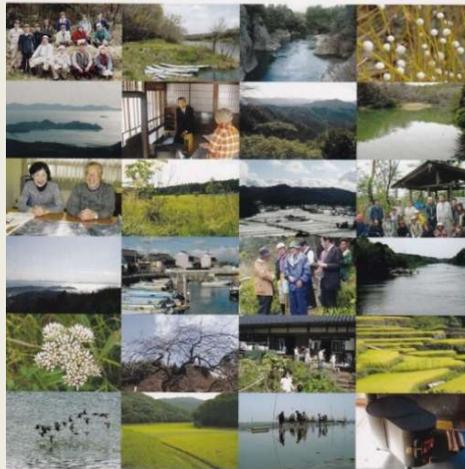


流域圏連携のあゆみ I

- 2008～2011年度 NGO生物多様性フォーラム（JFB）による伊勢湾流域圏調査
近藤朗、清水雅子、曾我部行子、浜口美穂、他多数が参加
～愛知・岐阜・三重での伊勢湾流域圏の市民ネットワークが構築された
4か年で5期／80団体を取材調査



伊勢・三河湾流域の保全・再生に向けて
Working Toward Conservation and Restoration
of Biodiversity in Ise Mikawa Bay Watershed



- 2012年4月1日 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会発足（伊勢湾流域圏NWをベースに）
- 2013年度～
矢作川流域圏懇談会において担い手作り事例集調査が開始（上記調査をベースに）
（2013～2016）山村再生担い手づくり事例集
（2017～現在）流域圏担い手づくり事例集 / 2024年度まで全9冊発行
- 2016年～
ミズべる会（2016～）、木曾川流域研究会・研修会（2017～）などがスタート
／名古屋大学 中村晋一郎准教授を中心に多様なセクター・世代が集結



- 2018年5月11日 延藤安弘先生を偲ぶ会
／名畑恵さんが後継者に
- 2018年10月27～28日 あいち朝まで川談義
／岡崎市菅生神社から配信



2018.10.27～28 あいち朝まで川談義



2018.5.11 延藤先生を偲ぶ会

後継者の名畑恵さん

流域圏連携のあゆみ Ⅱ

- 2018年12月1～2日 第11回いい川・いい川づくりワークショップ 北海道・十勝大会
22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会が準グランプリ受賞 ～中部大会誘致を表明



- 2018年度～ 未来創造プログラム（地域の未来・志援センターによる担い手育成事業）開始



- 2019年10月5～6日 第12回いい川・いい川づくりワークショップ 京都・滋賀大会
「みんなー中部に行きたいカー！」次回第13回（通算23回目）開催を宣言する



2019.10.6 いい川・いい川づくりワークショップ 京都・滋賀大会最終日での次回中部開催宣言(清水雅子)

- 2019年12月 中部流域連携ネットワーク設立/いい川WS中部を長良川大会とすることで決定



流域圏連携のあゆみ Ⅲ

- 2019年度～ 未来創造プログラムによる学生合宿を本格展開する



2019.1.5～6 「地域を知る石徹白合宿」



2019.8.10～12 学生会「答志島合宿」



2019.12.10～12 「佐久島合宿」

- 2020年12月26～27日 ゆく川くる川 川談義 開催（名古屋市堀川より全国オンライン配信）
コロナ禍によりいい川WS長良川大会を翌年に延期、代替企画を展開した



- 2021年10月1～3日 第13回いい川・いい川づくりワークショップ 中部・長良川大会



流域圏連携のあゆみ IV

- 2022年～ 未来創造プログラムによる森の未来合宿、答志島合宿を本格展開していく



2022.3.9～10 根羽村・林業のミライ合宿 試行版



2022.8.18～19 根羽村・林業のミライ合宿①



2022.10.8～9 答志島合宿

- 2022年5月6～8日 中部流域連携NW 天竜川まるとエクスカーション（愛知・静岡・長野）



- 2022年11月12～13日 第1回中部のいい川ワークショップ in 天竜川 開催



- 2022年11月23日 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会 野村典博氏葬儀／学生・OBが集結



2022.10.9 野村さんが最後の参加となった答志島海岸清掃・交流会（160名参加）



流域圏連携のあゆみ V

- 2023年3月19日 第208回 河川文化を語る会 開催 NSP22 小浦嘉門代表、千葉賢教授「22世紀奈佐の浜プロジェクトの軌跡と展望」NSP22の各県代表を20代の若者たちに継承する



NSP22 三重県代表・下田菜生さん (左端) 岐阜県代表・見屋井一来輝さん 愛知県代表・今井和樹さん
2023.6.13 日本水大賞受賞式にて 右隣は浅井雄大さん 2018北海道にて 2023.8.18 韓国益山 川の大会にて

- 2023年9月1～2日 第2回 根羽村・林業のミライ合宿
- 2023年10月7～8日 第2回 NSP22答志島学生・OB合宿 & 第11回答志島海岸清掃



- 2023年11月7～8日 多摩川源流域にて 多摩川流域×矢作川流域圏 懇談会交流会



- 2024年1月20日 第2回中部のいい川ワークショップ in 矢作川流域圏 開催「流域治水と言う勿れ」

- 2024年1月21日 矢作川中流域 エクスカーション / 菱池遊水地、乙川



- 2024年2月12日 矢作川流域圏懇談会 第4回公開講座「川がつなく 私たちの未来」



流域圏連携のあゆみ VI

- 2024年2月17日 第16回「川の日」ワークショップ関東大会（東京・二子玉川）

多摩川流域懇談会
×矢作川流域圏懇談会
連携発表



- 2024年3月2日 地球対話フォーラム in 大阪



2023.2.23 地球対話フォーラム モリコロパーク

2024.3.2 地球対話フォーラム 大阪

6.29愛知・川の会 関西

- 2024年3月17日 第212回 河川文化を語る会 開催 豊田市矢作川研究所 宮田昌和、洲崎燈子
「地域に根ざした川の研究所 30年のあゆみ」
* 豊田市矢作川研究所が第26回「日本水大賞」環境大臣賞を受賞



2024.6.18 日本水大賞受賞式にて

6.17愛知・川の会関東

- 2024年6月2日 野村典博さんを偲ぶ会（岐阜市内）



- 2024年7月6～7日 第5回矢作川流域圏懇談会 流域圏担い手づくり事例集交流会を鳥羽で開催
「伊勢湾・三河湾の豊かさを考える」



流域圏連携のあゆみ Ⅶ

- 2024年9月1～2日 第3回 根羽村・林業のミライ合宿
「なぜ地域の木材を使うのが良いことなのか？」



- 2024年9月14日 愛知・川の会（関東）源兵衛川エクスカージョン（静岡県三島市）



- 2024年10月12～13日 第3回 NSP22答志島学生・OB合宿
& 第12回答志島海岸清掃



- 2024年11月23～24日 木曾川流域研究会・木曾川研修会⑦ 揖斐川中下流編

- 2025年2月1日 第3回中部のいい川ワークショップ in みえ（四日市）開催

- 2025年2月15～16日 第4回 豊田・森のミライ合宿